



# 都志見新聞

(医)医誠会都志見病院  
<http://tsushimi.jp>

発行部数 500部  
 発行月 1, 4, 7, 10月  
 発行人 都志見病院  
 広報委員会

新年明けましておめでとうございます。



皆様は、新しい2021年をどのようにお迎えでしょうか。

2020年は1月に中国の武漢市で「新型コロナウイルス(COVID-19)」が発生し、あっという間にパンデミックを起こし、「新型コロナウイルス(COVID-19)」対策一色の1年となりました。第1波の後、日本で初めての「緊急事態宣言」を政府が出し、第2波と続き、今や第3波が猛威を奮い、世界的な恐怖に陥っています。新型コロナウイルスの変異種も確認され、一刻も早く効果的なワクチンの接種が望まれております。医療従事者も「新型コロナウイルス(COVID-19)」との闘いに憔悴し、もはや限界にきている状況にあります。

私たちの生活様式は激変し、With コロナの生活を余儀なくされています。感染症対策のため面会制限を行なう事となり、入院患者様はもとより、ご家族の皆様にも大変なご辛抱をいただく事となりましたことは医療者としても残念でなりません。今は一日も早い「新型コロナウイルス(COVID-19)」の収束を祈るばかりです。「新型コロナウイルス(COVID-19)」対策につきましては、今後も病院職員が一丸となって取り組み、安心してご受診いただけるよう努力してまいります。どうか皆様もこのコロナ禍を共に乗り切ってくださいようお願い申し上げます。

2020年は暗いニュースが多かったのですが、2021年は延期された「東京オリンピック2020」が開催される予定です。辛く苦しい1年間の後は少しでも明るい出来事が沢山あることを切望します。2021年の干支は「辛(かのと)丑(うし)」です。植物の一生から言えば、「辛(かのと)」は草木が枯れ新しくなろうとしている状態、「丑」は種から芽が出ようとする状態を示します。まさに転換期となります。辛い事が多いだけ、大きな希望が芽生える年になります。あたり前の事をコツコツと地道に頑張ることが2021年を良き年にするための秘訣です。

萩で育った私は、この自然あふれる維新胎動の地、萩と当院が大好きです。長年、北浦地域の急性期病院としての役割を担ってまいりました。中核病院の統合に向けて更なる努力をし、今後も皆さんに信頼され、愛される病院を目指して日々精進してまいりたいと存じます。

末筆ながら、2021年が皆様にとって良き年でありますようお祈りいたします。今後も引き続き、皆様のご指導・ご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

都志見病院 院長補佐・看護部長 小西 恵

-シリーズ- “がん”について知っておこう 『がん検診の大切さ』

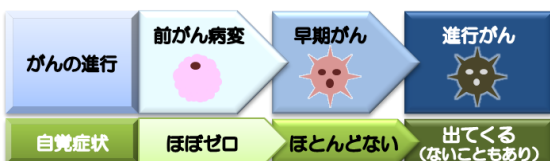


山口県はがん検診受診率が低い

山口県のがん検診の受診率はとても低いです。特に、大腸がん検診・乳がん検診・子宮がん検診の受診率は**全国で最下位**です。多くの県民が「忙しいから」「心配な時はいつでも受診できるから」「健康に自信がある」等の理由でがん検診を後回しにする傾向があるようです。

がんは早期発見すれば90%以上※が治る

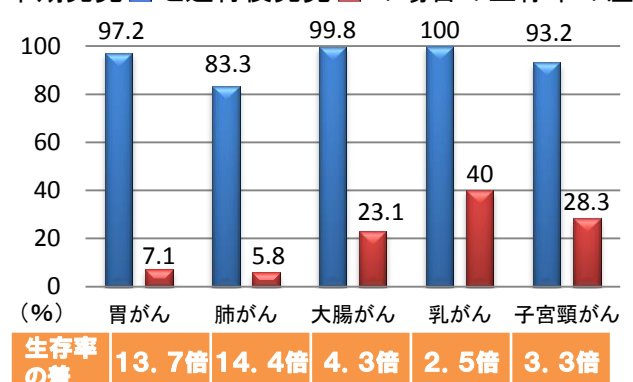
がんの恐ろしいところは、**初期段階ではほとんど自覚症状がない**ところです。しかし、いまはがん検診の普及や検診の精度が向上したことにより早期発見ができるようになりました。また、医療の進歩により早期治療が可能となっています。



昔は死の病ともされていた「がん」ですが、現在では**早期発見すれば90%以上が治る※**といわれています。

※ここでいう「治る」とは診断時からの5年生存率です。

早期発見と進行後発見の場合の生存率の差

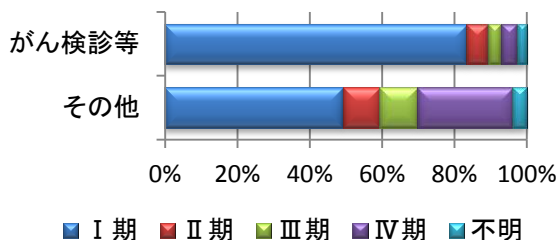


治るがんを早期に発見するためには、「がん検診」がとても有効です

がん検診は症状がない人が受けるため「早期がん」(右図ではI期)であることが多いのです。しかし、どんな検査も100%がんを発見できるわけではありません。一度受けたらおしまい...ではなく、定期的に受けることが大切です。どのがん検診が受けられるかは、市町の担当窓口や職場などでご確認ください。

がんの発見経緯別ステージ

例) 胃がんの場合



※その他...症状があって受診した場合等



精密検査や治療を受けなければがん検診の効果はありません

「要精密検査」といわれても、がんではないとわかることも多いので、むやみに怖がらず精密検査を受けましょう。精密検査を受けて、「異常なし」であれば次回の検診へ、「がん」と診断された場合は適切な治療を受けることが重要です。





## 地域がん診療医療従事者研修会

新型コロナウイルス感染症のために4月以降院内講演会が開催できませんでしたが、感染予防対策を万全に行いやっと院内講演会を開催することができました。今回は山口大学医学部附属病院腫瘍センター准教授の井岡達也先生をお招きいたしました。

井岡先生は2020年4月前任地の大阪国際がんセンターから山口大学に赴任されました。ご専門は消化器がん特に肝胆膵がん化学療法のエキスパートで山口県では数少ない日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医でございます。その他、消化器病専門医・指導医、消化器内視鏡専門医・指導医、日本膵臓学会、日本胆道学会の指導医をお持ちです。日本臨床腫瘍学会肝胆膵グループ代表委員、関西肝胆道オンコロジーグループ代表世話人、膵癌診療ガイドライン改訂委員、肝内胆管癌診療ガイドライン改訂委員を務められています。また、日本の名医(肝胆膵がんの名医)に選出されています。当日は消化器がん化学療法:Updateの演題名で特に膵臓がん、胆道がんの最新の化学療法や臨床試験についてわかりやすく解説いただきました。さらに、先生が赴任されてからの大腸がん



症例を提示していただき当院の外科医とディスカッションを行いました。リモート講演会では伝わらない熱のこもった講演会でした。

今後、井岡先生には腫瘍内科医として当院で化学療法のご指導をお願いする予定となっております。地域がん診療病院として萩のがん診療向上を目指して山口大学と密に連携していきたいと思っております。

副院長 山本達人



## 感染対策 病院全体研修

感染管理認定看護師 奥川広子

当院では、院内感染防止対策研修会で、定期的に手洗い研修を行っています。

研修の主な目的は、「日常に行っている自分自身の手洗い方法についての振り返り」なのですが、皆、いつもより念入りに手洗いをしていたような…。にもかかわらず、多くの職員の爪や指の間に洗い残しがみられ、一様に驚いていました。

自分自身の手洗いの苦手な部分を理解し、今後意識して手洗いを行っていくことが、院内感染予防につながっていくことと思っております。これからも定期的に行っていきたいと思っております。



白くなっているところが洗い残しです



## 医療安全 病院全体研修

医療安全管理者 石井恵子

オンデマンド配信を活用し、8月に「現場でできるヒューマンエラー対策」、11月に「安全のための改善活動」をテーマとした研修を行いました。受講できなかった職員には資料を配布し、ヒューマンエラー防止への取り組みや医療安全活動へ参加することの重要性を全職員に学んでもらいました。



# 2019年度 地域包括ケア病棟FIM点数 介護度別分析

リハビリテーション部 技士長 小川 寛晃

## 1. 前回の概要

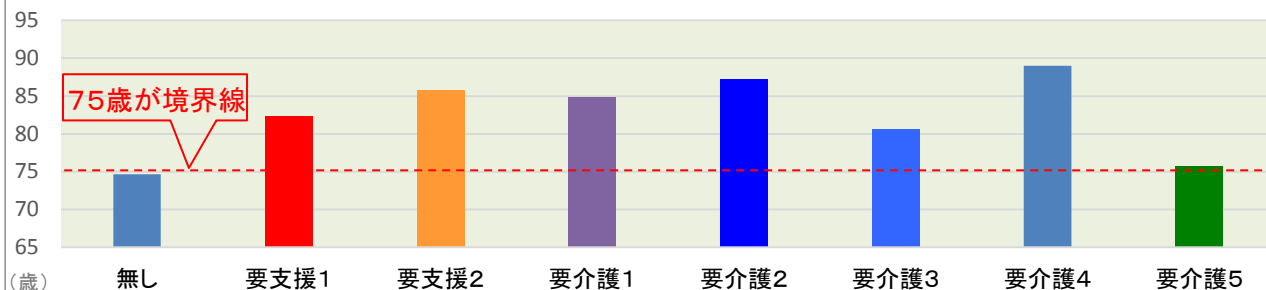
FIMとは、機能的自立度評価表(Functional Independence Measure)の略で、“しているADL”評価法です。特に介護負担度の評価が可能であり、ADL評価法の中でも、最も信頼性と妥当性があると言われ、リハビリの分野などで幅広く活用されています。特に介護負担度という視点からみた妥当性の検討では、FIMと介護時間との相関は十分に高いことが報告されています。具体的には、食事や移動などの“運動ADL”13項目と“認知ADL”5項目から構成され、各項目が1～7の7段階で介護負担度を評価しており、合計点数が18～126点で介護負担度が算出されます。論文によると1点が介護時間 1.61分に相当すると言われ、110点で介護時間0分(自宅内においての身体介護が不要)と報告されています。

2019年度、当院地域包括ケア病棟へ入院されたリハビリ対象患者さん324名のうち158名についてFIMデータを蓄積し分析を行いました。在宅復帰群は130名(平均年齢79.2歳)でFIM平均点数は108.7点で在宅復帰率82%でした。やはり萩医療圏においても、FIM110点が在宅復帰の目安と考えられることがわかりました。今回は介護度別にFIMデータの分析を行いました。

## 2. 介護度別 平均年齢

介護保険別に整理すると、介護度未認定者は69名(平均年齢74.6歳)でFIM点数は116.3点でした。介護度別に平均年齢を算出した結果、当院の入院患者さんにおいては、75歳を境界線として介護度を有する確率が高いと言えます。萩医療圏では後期高齢者の方がリハビリを有する疾患で入院すると、退院時には介護度を有するという結果が浮き彫りになりました。

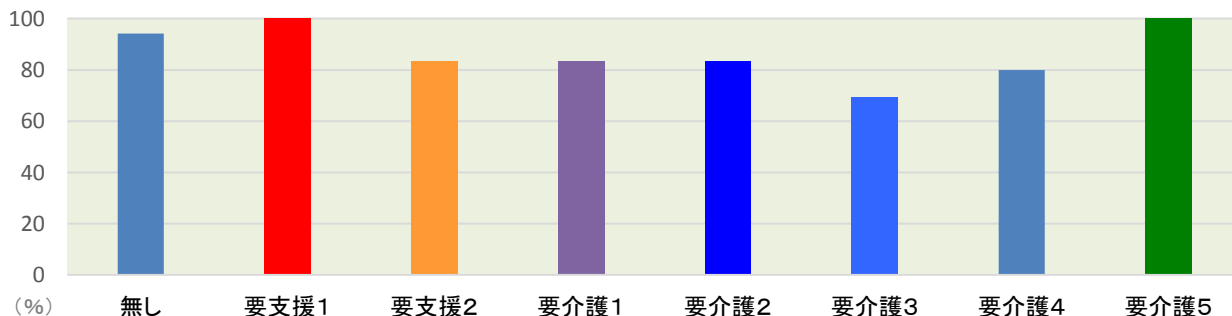
平均年齢



## 3. 介護度別 在宅復帰率

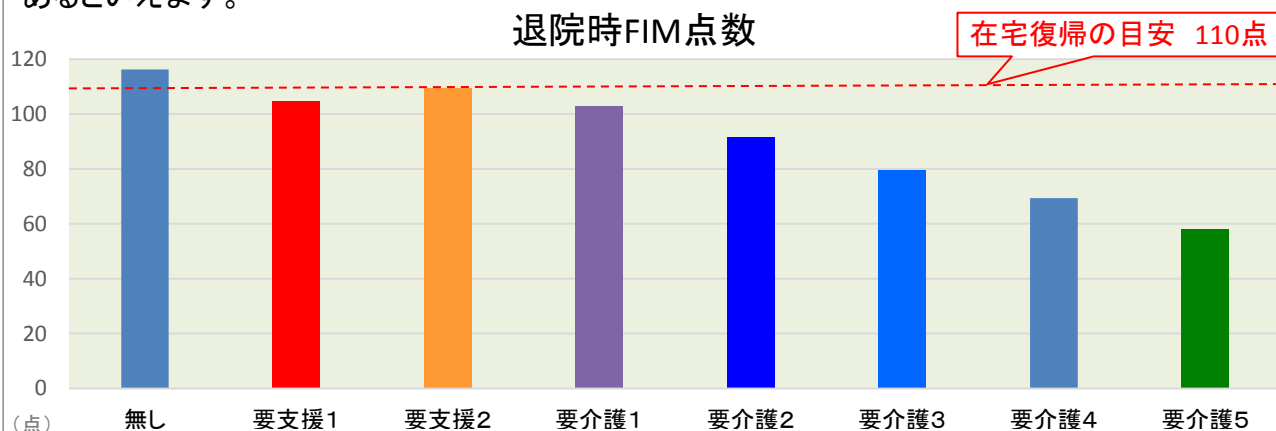
介護度別に在宅復帰率を算出してみると、介護度無し群と、要支援1群では90%以上が在宅復帰しているのに対し、要支援2群以上では20%近くが、また、要介護3群では30%近くが在宅復帰できない状況でした。一方で、要介護5群は在宅復帰率は100%でした。これはADL能力とは別に介護能力と関係していると推察されました。

在宅復帰率



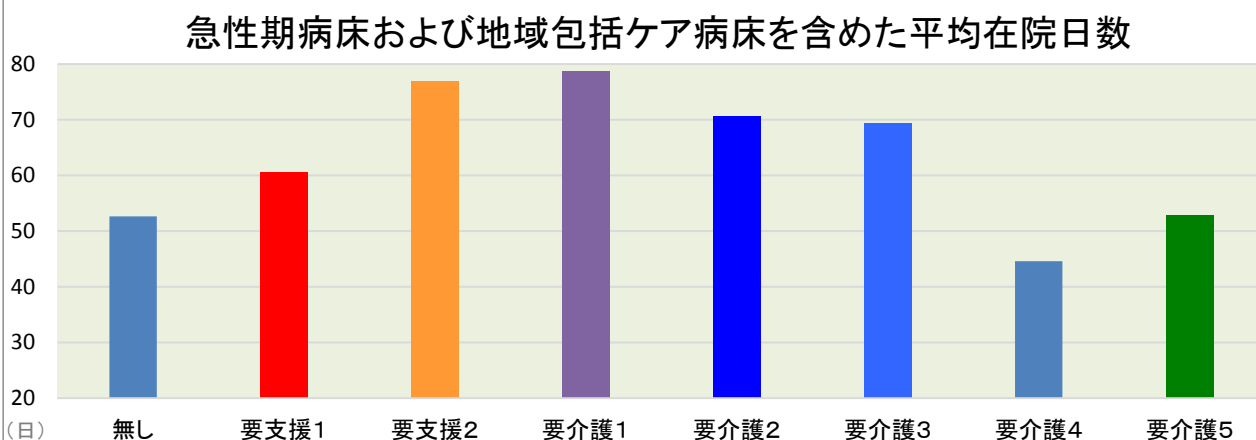
#### 4. 介護度別 退院時FIM点数

介護度別の退院時FIM点数をしてみると、介護度無し群および要支援2群では日常生活自立の目安である110点を獲得できていました。一方で、要支援2群以外の介護度を有する群は110点を下回っており、介護者の同居の必要性や、何らかの介護保険サービスを利用する必要があるといえます。



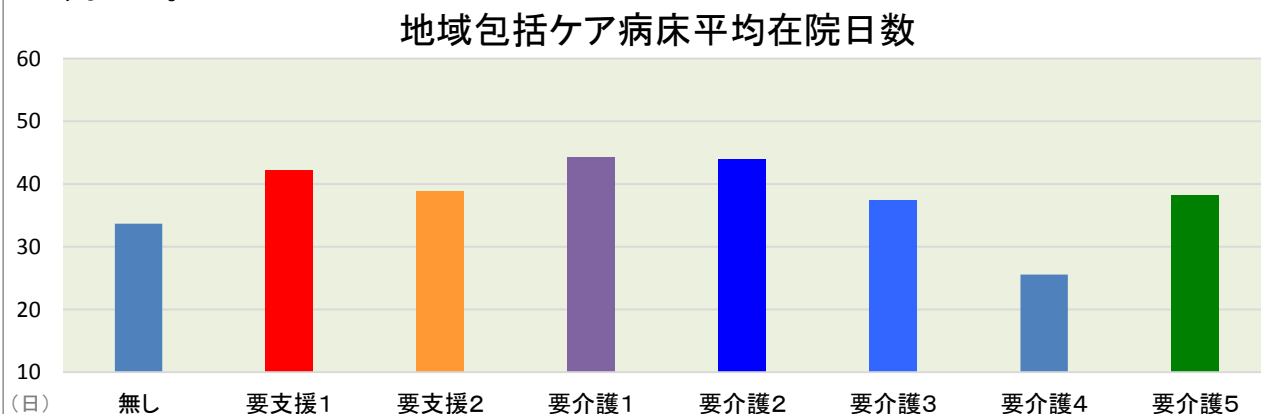
#### 5. 介護度別 在院日数

地域包括ケア病床平均在院日数を見てみると、介護無し群の在院日数は50日弱であるのに対して、要支援1群から要介護3群は60～80日程度入院期間が必要であったと判明しました。



#### 6. 地域包括ケア病床 在院日数

地域包括ケア病床在院日数は、要支援1群から要介護3群では40日程度であり、急性期病床で在院日数を調整しているといえます。地域包括ケア病床の入院期間は最長60日と既定されており、介護度を有する入院患者さんは、20日前後で地域包括ケア病床に移動になることが分かりました。





# 「都志見Spirit」

## 部署紹介



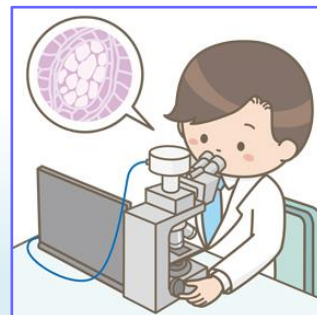
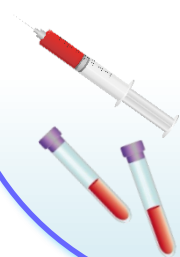
### 検査部

#### 中央臨床検査部の都志見Spirit !!

- 正確な検査データを迅速に臨床へ報告し、診断や治療方針の決定に貢献します。
- 患者さんの立場に立って考え、安心できる検査技術を提供します。
- 常に技術と知識の向上に努め、医学の進歩に対応した質の高い検査情報を提供します。

検査部は①中央検査室、②エコー室、③病理室の3つの部門に分かれています。

- ①中央検査室では、採血や尿・便検査、心電図検査、呼吸機能検査などを行っています。
- ②エコー室では、体の外から体の中の臓器(心臓や腹部、乳腺、甲状腺、血管など)を見る超音波検査を行っています。
- ③病理室では、胃カメラや手術などで患者さんの病変部から採取された細胞・組織を肉眼や顕微鏡で観察して、炎症の程度を見たり、腫瘍であれば良性・悪性を診断したりする検査を行っています。この3つの部門で連携して、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう、これからもがんばりまーす！



### 臨床工学部

#### 臨床工学部の都志見Spirit !!



### いつでも、だれでも、全集中!!

当院臨床工学部は、医師、臨床工学技士、臨床検査技師、看護師の多職種で構成されています。現在の業務は、ME機器管理(人工呼吸器等)、不整脈治療機器管理(ペースメーカー等)、血液浄化治療(人工透析等)、内視鏡支援業務等、在宅医療機器訪問チェック等です。以前は、人工心肺・ECMO(体外式膜型人工肺)、心臓カテーテル業務にも対応していましたが、残念ながら現在は休止中です。

今後、病院統合後に向け、コロナ禍に於ける感染重症患者(人工呼吸器・ECMO)にも対応できるよう、また、チーム医療の一員として地域医療に貢献できるよう、研鑽を重ねて行きたいと思っております。



### ONE TEAM



## ケーススタディ発表会



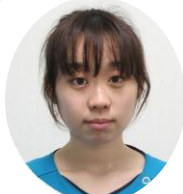
11月18日に会議室で行いました。今年は3名の発表でしたが、看護を振り返り、学びを共有することができました。



手術室  
石飛光太郎



男性職員の自分が、成人女性の手術を担当することに対する自身の思いと患者様の思いを確認し、看護を振り返った



透析室  
今本夏都希

透析治療について理解されていない難聴の患者様との関わりで学んだこと



6階病棟  
波多野利枝

自宅退院を希望しているターミナル患者様の不安に対する退院支援を振り返って

## 永年勤続表彰者

今年度の永年勤続者表彰は、勤続年数30年 4名、20年 5名、10年 8名、計17名の方々が授与されました。30年表彰者は以下の4名の方々です。皆さんおめでとうございます!!

